

鎖ペンを握って

——三月十九日夜——

山頭火

種田山頭火

青空文庫

△春と共に白楊社が生れた。あのポプラ若葉のようにすくすくと伸びゆけよと祈る。

△会名の『白楊社』は可い。（たしか二三年前に東京郊外在住の画家連中が同名の会合を組織していたと思う。今では解散したらしい）『四十女の恋』は本集の内容にふさわしくない。次号からはもっと適切な名をつけて欲しい。

△勝手な文句は並べるものの、私は不泣君の労に対しては最大級の感謝を捧げます。

△編輯は順番に為ることにしたい。各地各人の気分が出て面白かろうと思う。

△歌の数は最近作十首内外ということにしたい。それでないと、

一人で二百首も三百首も出されたとき、編輯者が困る。そして十首内外ならば、ほぼ、或る纏った気分を現わすことも出来ようし、また最近作として置けば季を限る必要はない。

△歌集留置期限はまあ二三日ということにしてはどうだろう。二回まわすのだから、その位の日数にしておけばどんな忙しい人でも充分通読することが出来るだろうと思う。

△互選はせぬ方がいいらしい。その代りに読後の感想をなるべく正直に、なるべく詳細に書いて貰いたい。

△申合は此位にして置きたい。此以上呶々すると面白くなくなる。それから先の事は自己の芸術的良心に従って行えば可い。それ

ません。私は妻も子もある三十男ですからね！ 諸君、可愛く
なりませんか※

△本集は『春愁』『若き悲しみ』またはハイカつて（少々嫌味は
あるが）『二十歳ハタチの峠へ、三十歳の峠から』とでも名付くべき
でしたらう。若い人は大胆に若い恋を歌いたまえ。私ら中年者
は中年の恋を露骨に歌います。それにしてももう少し物足りま
せんね。老翁おじいさんと……そして……フエヤセツクスがないか
ら！

△私は以前から小つぽけな純文芸雑誌発刊の希望を胸ふかく抱い
ています。機が熟したら、必ず実行します。そして、その一半
を俳句の椋鳥会と短歌の白楊社とに捧げたいと思っています。

郷土芸術——新しい土に芽生えつつある新らしい草の匂いが、春風のように私の心をそそります。そして私の血は春の潮のように沸き立って来ます。（併し、こんなことはあまり高い声では申されません。地方雑誌の経営ではこれまで、度々失敗していますから。）

△ △ △

△春が来た。春が来たからといって、私には間投詞を並べて、可愛い溜息を洩らすほどの若々しさもなく、また、暗い穴の底へ^{ほう}投げ込まれたような鬱憂もないが、矛盾した自己を、やや離れた態度で、冷かに観照しうるだけの皮肉がある。シニカルな気分である。この心持はドストエフスキーやストリンドベルヒの

それらでなくしてチエーホフのそれに近い。微笑でもない、慟
哭でもない、泣笑である。赤でもない、黒でもない、クリーム
色である。

△『三十男にも春は嬉しい。』と白泉君が呟く。『嬉しくないこ
ともないね。』と私が答える。『あまり嬉しくはないんですか
。』と誰やら若い人が混ぜ返す。——こういう心持をおどけた
態度[△]でうたつてみた。断るまでもなく与太郎の囁^{たわごと}語[△]みたい
ものである。本号の雑録があまり淋しいから、筆序に書いて置
きました。真面目に読んで下さると、諸君より先に、私の方が
じつとしていられません！

(歌集『四十女の恋』所収 大正二年)

青空文庫情報

底本：「山頭火随筆集」講談社文芸文庫、講談社

2002（平成14）年7月10日第1刷発行

2007（平成19）年2月5日第9刷発行

初出：「歌集『四十女の恋』」

1913（大正2）年

入力：門田裕志

校正：仙酔あびす

2008年5月19日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

鎖ペンを握って

——三月十九日夜—— 山頭火

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫
著者 種田山頭火
URL <http://www.aozora.gr.jp/>
E-Mail info@aozora.gr.jp
作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU
URL <http://aozora.xisang.top/>
BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>